

# ドイツの 原田豊吉につい ての新資料

堀越 毅

## ことはいきさつ

ハイデルベルク大学の鉱物岩石学教室は 1967年4月に新しい敷地へ移転した。その年の暮 筆者は 図書室にあった未整理品のうち 「ローゼンブッシュ教授 (Prof. Dr. ROSENBUSCH) の学生達」として分類された箱の中に 原田豊吉の写真二種類を発見した。1971年の秋 筆者は原田豊吉が渡独後に初めて入学した シュターデ(Stade)のアテノイム・ギムナジウム (Atheneum Gymnasium) を訪れた。ここで原田豊吉の 1876—1877年の間の成績簿が発見された。この稿は これらの新資料についての覚書である。

ギムナジウムで古記録探索の労をとられた同校の方々本稿をまとめるに当り 色々とお教示下さった 地質調査所今井功博士 調査研究費を出して下さいました ドイツ連邦共和国の ALEXANDER VON HUMBOLDT STIFTUNG これらの方々に深く感謝いたします。

## シュターデの原田豊吉

シュターデの町は ハンブルグの西 エルベの河口を隔てて約35kmにある。ハンザ時代に栄えた町であるが 人口は現在33,000人 小さな町である。いまシュターデの町には 男子のためのアテノイム・ギムナジウムと 女子のためのヴィンセント・リュエバック・シューレ (Vincent—Lübeck—Schule) の二つのギムナジウムがある。原田豊吉が学んだ前世紀の終わりには 前者だけが存在した。その正式な名称は Gymnasium zu Stade であつたらしい。この学校は幸いに戦災をまぬかれ 多くの古記録が残っている。しかし戦争中 重要書類を急速地下室へ疎開し 現在もそのまま乱雑に放置されている。そのため 特定のものを見出すのは大変に困難である。原田豊吉がシュターデのギムナジウムで 1874年から1877年までの三年間学んだことはすでに明らかになっている。しかし上に述べた事情のため見出された成績簿はその一部 1876—1877年の分だけであつた。

記録の内容は下記のごとくであり 第1図にその写真が示されている。

Schulzeugniß  
des  
Gymnasium zu Stade  
für  
TOYOKITSI HARADA  
Sohn des Arsenaldirector HARADA in Jeddo,  
geboren in Jeddo, am 10, Nov. 1861,  
aufgenommen in Quarta, Michaelis 1874,

## Schulzeugniß des Gymnasium zu Stade

für  
Toyokiti Harada.

Sohn des Arsenaldirector Harada in Jeddo.  
geboren in Jeddo am 10. Nov. 1861.  
aufgenommen in Quarta Michaelis 1874.  
von Stade 1876 bis Michaelis 1877 in Secunda realis.  
Sein Schulbesuch...  
Eitliche Aufführung...

Aufmerksamkeit...  
Sein Fleiß...

## Seine Kenntnisse sind nach dem Standpunkte seiner Klasse:

- in der Religion
- „ Deutschen Sprache befriedigend
- „ lateinischen „ befriedigend
- „ hebräischen „
- „ griechischen „
- „ französischen „ nicht gut
- „ englischen „ nicht gut
- „ Geschichte
- „ Geographie
- „ Arithmetik
- „ Geometrie
- „ Physik
- „ Naturgeschichte
- in Rechnen
- „ Schreiben
- „ Zeichnen
- „ Turnen

Stade, den 21. ten Sept 1877.

Director

18

Schullicher in Secunda realis.  
A. Reijer.

Dr. Rosenbusch.

第1図 原田豊吉のシュターデのギムナジウムにおける成績簿。1876—1877年の分。

von Ostern 1876 bis Michaelis 1877 in Secunda realis.  
 Sein Schulbesuch war regelmäßig  
 Sittliche Aufführung ohne Tadel  
 Aufmerksamkeit recht gut ;  
 Sein Fleiß recht gut ;  
 Seine Kenntnisse sind nach dem Standpunkte seine Klasse :

in der Religion	
// deutschen Sprache	befriedigend
// lateinischen //	befriedigend
// hebräischen //	
// griechischen //	
// französischen //	recht gut
// englischen //	recht gut
// Geschichte }	recht gut
// Geographie }	
// Arithmetik	sehr gut
// Geometrie	sehr gut
// Physik	recht gut
// Naturgeschichte	recht gut
im Rechnen	recht gut
// Schreiben	
// Zeichnen	befriedigend
// Turnen	befriedigend

Stade, den 21 ten Sept. 1877

Director Hauptlehrer in Secunda realis.

P. Böthir

Leiter Fritzsch.

見出された記録によると 原田豊吉は1874年のミカエル祭(9月29日)の後の新学期から Quarta に入学した

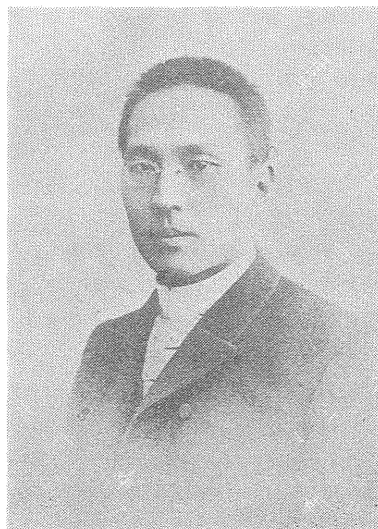


第2図 アテノイム・ギムナジウム シュターデの正面。1971年10月写す。原田豊吉が学んだところと変わっていない。

事が判る。Quarta とは 9年制のギムナジウムの第3学年の事である。1861年11月10日に生れた原田豊吉は 当時未だ満12歳であった。これはドイツの児童の就学年令と合っており 彼はドイツへ来て より低学年に編入されたわけではない。

なぜ彼がシュターデへ来たかを暗示する資料が 同時に発見された。それは GISABRO TANABE というもう一人の日本人の成績簿の存在である。彼は後に土木を専攻し 内務省へ入った田辺義三郎(1859—1889)であろう。田辺義三郎の成績簿は 1875—1876年の分が見出された。それによると 彼は原田豊吉より一年早く1873年に入学し 少なくとも1876年までは在学した。原田豊吉は日本において田辺義三郎がシュターデにいる事を知り その縁でシュターデのギムナジウムへ入ったのではなかろうか。いずれにせよ 1874—1876年のシュターデのギムナジウムには 二人の日本人が在学した。今から約100年前の事である。

シュターデにおける原田豊吉の成績は良かった。しかし田辺義三郎の成績はもっと良かった。ドイツの生徒の成績は sehr gut の数が目安になる。原田豊吉が sehr gut ニツ 田辺義三郎が四ツである。クラスの標準が判らないので 確かな事は言えないが 原田豊吉は成績抜群という程ではなかった。学科で sehr gut を取ったのは数学と幾何である。これに対してまあまあの成績 befriedigend であったのは ドイツ語 ラテン語 そして図画 体操であった。ドイツ語が befriedigend であったのは 田辺義三郎も同様で 外国人としては 致し方なかったのであろう。他は recht gut

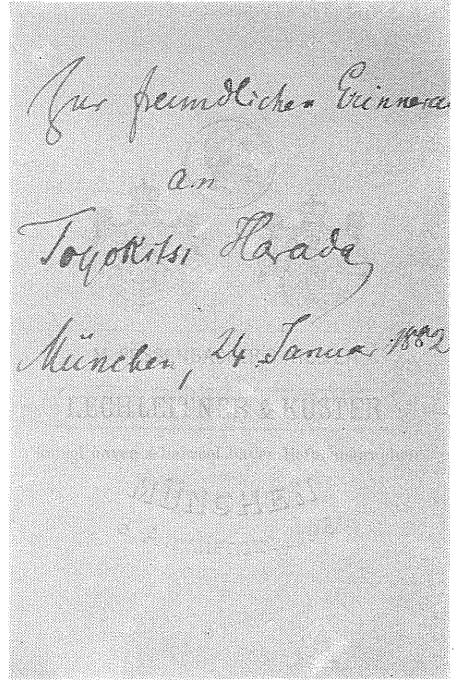


第3図 原田豊吉の写真。おそらく1880年の夏ベルリンで写され ハイデルベルク大学での聴講に使われた。



第4図  
原田豊吉の写真。1881年の夏にミュンヘンで写され1882年1月24日にローゼンブッシュに手渡されたと思われる。

第5図  
第4図の写真の裏面。「Zur freundlichen Erinnerung an TOYOKITSI HARADA München, 24. Januar 1882」と記されている。



であった。「注意力」「勤勉さ」といった項目は recht gut であり sehr gut ではなかった。田辺義三郎はこれらも sehr gut である。

今までの資料によると 発見されたのはシュターデにおける原田豊吉の最後の成績簿である筈である。その他の学年の成績簿は 筆者の訪問中には発見されなかった。学校の方々の話によると 全部保存されている筈だとの事である。筆者は自分で探したいと申し出たが学校の方に色々な事情があるらしく それは許可にならなかった。アテノイム・ギムナジウムの正面は 原田豊吉が通った頃と全く変わっていないそうである(第2図)。しかし右裏手には新校舎が増築され 中庭からの外観は変化した。また周囲の家々も古いものが多く 当時と余り変わっていないでしょう との事であった。

### ハイデルベルクの原田豊吉

原田豊吉はシュターデに学んだ後 フライベルクの鉱山学校に3年学び ハイデルベルクへ来た。1880年の事で 彼はその秋に19歳を迎えた。ハイデルベルク大学の鉱物岩石学教室に保管されている原田豊吉の写真は2種2枚ある。第3図の写真は 彼が講義を聴講する時に使用したものであろう。裏に「Erich Sellin & Co. Berlin W. Unter den Linden 19. II」とある。それで 彼はフライベルクからベルリン経由でハイデル

ベルクへ入った。写真はその間 すなわち1880年の夏にベルリンで写された と考えたい。

第4図の写真は 表に彼のサイン 裏に第5図に示す献辞がある。それは「Zur freundlichen Erinnerung an TOYOKITSI HARADA München, 24. Januar 1882」と読める。誰に宛たものか明らかでないが この写真がその後ローゼンブッシュによって保管された事を考えると ローゼンブッシュに対するものと考えるのが妥当であろう。原田豊吉は 1881年にハイデルベルク大学からミュンヘン大学へ移り チッテル(K. A. von ZITTEL)に古生物を学んだ。おそらく1881年の夏の事である。たまたまローゼンブッシュが1882年1月24日にミュンヘンを訪れ 原田豊吉が再会した恩師へ直接この写真を手渡したものであろう。写真はミュンヘンで写されている。したがって1881年の夏 ミュンヘン大学の聴講届用に写されたものかも知れない。

ミュンヘンでの写真が写された当時 彼は髪を伸ばし始めていたようである。おそらく1881年の春 あるいは新春から 彼は長髪を試みたのであろう。それ以前の彼は ベルリンの写真が示すように五分刈りであった。1894年12月2日 原田豊吉が亡くなった時 地学雑誌は彼の功績を称える一文を写真入りで掲載した。その写真の彼は五分刈り 顔付きもベルリンの写真に似ている

ように思える。もしかしたら その写真はハイデルベルク滞在中に写されたものであるかも知れない。

なお他に ハイデルベルク大学には A. ABE の写真がローゼンブッシュの学生として保管されている。この阿部某の素性は判らなかった。

あ と が き

ハイデルベルク大学で偶然に原田豊吉の写真を発見した後 今井功によって書かれた原田豊吉の伝記を日本から取り寄せた。シュターデの町の名は その本を通じて筆者のメモに記された。シュターデの町を訪れる機会は仲々来ず 結局は1971年10月4日になった。古い方のアテノイム・ギムナジウムへ行って「今から100年前 原田豊吉という日本人がこの学校に学んだはずです。彼に関する何かが残っていないでしょうか」と来意を告げた。約1時間ほどで 遂にその何かが見付かった時は 無性に嬉しかった。未だ他にも 日本の地質学

の先駆者に関する資料が埋もれているかも知れない。

このような資料の発掘は 筆者の如く片手間では大変困難である。地質学史の専門家が それを目的として歩く必要がある。このような研究分野にも 暖かい目を向けて下さる事を この機会に皆さんにお願いしたい。

なお 本稿で触れた資料は 筆者自身が保管している。また原田豊吉に関するものは 地質調査所の今井功博士 原田豊吉の子孫である原田啓策氏にも差し上げてある。

(筆者は 東京大学理学部地質学教室)

参 考 文 献

故原田理学博士略伝：地学雑誌 6 No.62 巻頭 (1894).  
 理学博士ドクトル原田豊吉君逝く：地質学雑誌 2 110—112 (1894).  
 今井 功：黎明期の日本地質学 原田豊吉 100—120 ラテイス (1966).

新刊紹介

OIL AND GAS PRODUCTION FROM CARBONATE ROCKS

わが国では 炭酸塩岩油層は秋田県の福米沢油田に小規模なものが知られているに過ぎないが 海外では 炭酸塩岩からの油・ガスの生産が大きな比重を占めていることは よく知られているとおりである。本書は 炭酸塩岩からの油・ガスの生産を扱ったまとまった文献としては おそらく最初のものであろう。編者3名を含む 10名の執筆者の大部分が豊富な経験を有する 第一線の技術者であることも 本書の大きな特色である。

本書は 第2章以下に対する序章に当る 第1章 第2章 “炭酸塩岩類の孔隙の幾何学” 第3章 “炭酸塩貯留層中における流体の流動” 第4章 “地層の評価” 第5章 “炭酸塩貯留層中における油・ガスの埋蔵量の計算および生産予測” 第6章 “炭酸塩貯留層の分類および挙動” 第7章 “炭酸塩貯留層の生産増加法” の7章 および付録A～Cからなる。本文の内容はそれぞれ各章の表題によく示されている。とくに 第2章の主題である炭酸塩岩中の孔隙のあり方およびその探鉱への応用に関する記事 第3章中の浸透率および割れ目の流動に与える影響に関する記事 第5章で重点がおかれている生産量減退曲線の解析および油層中の油の原始容積の

決定に関する記事 および第6章の後半で扱われている炭酸塩貯留層の挙動の理論的性質と実例に関する記事からは 教えられるところが大きい。また 世界の代表的な炭酸塩貯留層の鉱床の性質および挙動を支配する基本的な数字を一覧表の形で示した付録Cには 参照すべきおもな文献も明示されていて便利である。

わが国では 1958年の見付油田の発見以来 火成岩油・ガス層が注目されるようになったが その調査・研究および合理的開発には 本書の第2～6章が大いに役立つであろう。また 海外における油・ガス田の開発に際しては 炭酸塩貯留層に直接タッチしなければならないケースが 今後ますます多くなるであろう。このような観点から わが国の石油・天然ガス鉱業関係の技術者・研究者が一応マスターしておくべき参考書の1つとして 新たに本書が加わったといっても過言ではない。ただし あえて欲をいえば 本書の全体を通じて 苦灰岩に関してさかれているスペースが少ない点が いささかも足りない。

(福田 理)

編 者：G. V. CHILINGAR, R. W. MANNON & H. H. RIEKE  
 発行所：American Elsevier Publishing Co., Inc.  
 刊 行：1972 408p. 156×235mm  
 価 格：11,520円  
 全国の洋書販売店でお求め下さい。